

猛暑の中の選挙、ご協力ありがとうございました。

7月20日投票で参議院選挙が終わりました。自民、公明が有権者の厳しい審判を受けて衆参両院で少数となり、政治の新たな展開が予想される状況となりました。

しかし、その新たな動きの確かな推進力である日本共産党が議席を減らしました。残念至極なことでした。猛暑の中、温かいご支援、ご支持をいただいた皆様にお礼と共にお詫びを申し上げる次第です。

ただ大和高田市ではわずかですが前進させていただきました。重ねて、厚く御礼申し上げます。

奈良選挙区で奮闘された太田あつしさん、ご苦勞様でした。

参院選終わり、一か月ぶりに山歩き再開

選挙前から自らに課していた“禁足令”を解いて山歩きを再開。22日早朝には二上山で2時間半歩き回り、23日には金剛山登山で5時間半歩いた。



↑高天に向かう道の崖で咲き誇っていたヤマユリ

登山口は葛城古道の最高地点

金剛山登山の奈良県側最短コース「高天(たかま)道」の登山口は御所(ごせ)市高天にある。金剛山の中腹にあるこの集落は、“葛城古道”(金剛山～葛城山東側山麓を南北に走る古道)の起点の一つでもあり、おそらく古道中の最高地点だろう。

この高天への急坂を小さなバイクで何とか上り切って、早朝5時45分高天彦(たかまひこ)神社駐車場に着いた。

参道の傍らでキツリフネやオニユリが花を見せていた。



登山口での思いがけない出会い

巨杉が並び立つ参道の白い砂利を踏みしめながら社殿に着き、トイレ(きれいで清潔)をお借りした後、登山靴の紐を締めなおしていると、突然 K 女史が現れた。K さんは厚生会友の会山歩きクラブなどで、何回もの山行を共にした山仲間。70歳代前半、健脚・能弁のつわものである。

訊くとほぼ毎日、この時刻から金剛山頂までを往復しているとのこと。

↑キツリフネ(高天にも山頂近くでも)



↑高天彦神社参道

近況を語り合いながら6:00出発。「先に行ってくれ」と言うと、ストックなし・片手団扇の軽快なスタイルで、みるみる遠ざかり、見えなくなりました。

かつて郵便集配人が歩いた道

高天川左岸の林道を歩き、高天滝の手前で飛び石伝いに川を渡って登山道にとりつく。この高天道は別名が「郵便道」。かつてはこの道を郵便集配人が山頂神社まで徒歩で通ったという。それだけに道は明瞭、要所要所に案内板やコースの略図が取り付けられてあり、迷うことはない。

イカリソウは咲いてなかった

この道に「イカリソウロード」と名付けた人もいるほど、イカリソウが多いのだが、今は花期を終えた多くの株が、特徴のある葉をびっしりと並べて、路傍の崖地を埋めている。

マクキヌガサタケと出会う

花と言えばトリアシショウマが何カ所かで咲いていた。植物ではないがマクキヌガサタケ(スッポンタケ科)が路傍で2個姿を見せていた。同科のキヌガサタケは二上山でも数カ所で毎年出現し、昨日も見れば



↑マクキヌガサタケ

←キヌガサタケ(22日二上山で)

かりだが、このマクキヌガサタケは珍しい。





8時半ダイトレに合流

2時間余歩き、曲折した長い急な階段を昇る。息が切れる。昔の郵便局員さんのご苦労に思いを馳せながら、8時30分ダイトレ(葛城・金剛山脈の縦走路)に合流。ここで下山するKさんに再会。さすがに速い。

たがいに励ましあって

「私も85歳まで山登りを続けます」「いやいや、貴女は90歳までいけるよ」とお互い、励ましあって別れた。

8時35分「一の鳥居」着。休憩後裏参道を通して8時50分葛木神社境内の山頂着。標高1125m。

葛城古道を飾るヤブカンゾウ

居合わせた登山者とよもやま話をし、軽食を摂って9時20分下山開始。往路を引き返し、11時30分登山口着。高天彦神社参道入り口のヤブカンゾウがオレンジの花を輝かせていた。



↑ヤブカンゾウ

日本のサクラがあぶない

枯れてしまった大和大谷別院の桜の木

私たちが、健康講座や各種集会の会場としてお世話になっている大和高田市大谷の大和大谷別院のサクラが枯れてしまった。春には花見を楽しみ、夏には涼しい木陰を提供してくれた桜の木。今や、無残な姿だ。幹には無数の穴が穿たれ、根元には「フラス(木くずと虫の糞などが混ざったもの)」と呼ばれる茶褐色の木くずの塊が堆積し、幹の穴(排糞孔)からもフラスが垂れ下がっている。

急速に広がる被害

自宅の近くの池田公民館の桜もすべての葉が茶褐色になり、神社の桜も枯れかかっている。さらに二上山登山口近くの鳥谷口古墳のそばのサクラの幹にもこの害虫が這いまわっていた。被害は全国的に広がり、バラ科の樹木・モモやウメ、スモモなどにも被害が出て、果樹栽培の大敵にもなりそうだ。



↑すっかり枯れてしまった大谷別院のサクラ

害虫の名はクビアカクロツヤカミキリ

穴だらけの幹。少し大きい穴は成虫の脱出孔か→

害虫は「クビアカクロツヤカミキリ」。東アジア原産の昆虫。大きさは3.5~4cmの大きさ。触角(ひげ)も黒く、オスの触角は体長より長い。

最近、入ってきた外来有害生物

近年、日本に入ってきて、急速に全国に拡がりつつある。環境庁は「特定外来生物」に指定し、駆除の対象としているが、対策は後手に回った感じで被害の拡大に追い付いていないようだ。今のままでは高田川沿いの桜並木も、各地のサクラも奈良県南部の果樹農園も危険な状況だ。

見つけたら捕殺が必要

昆虫マニアの中には生け捕りにして飼育したいと思う人もいると思うが、飼育も持ち運びも販売も違法行為なので要注意だ。国も自治体も「見つけたら捕殺してほしい」と

←クビアカクロツヤカミキリ 呼びかけている。



奈良県と高田市の担当部署

「奈良県病害虫防除所」0744-47-4481 「高田市衛生課」0745-22-1101